



今回はロータリー財団の補助金を活用した公共イメージと認知度の向上例を紹介します。

当2600地区の松本市は三つの「ガク都」をうたっています。優先順位はありませんが一つは市内から身近に見える北アルプスの雄大な山々の玄関口としての「岳都」、二つ目は信州大学や松本大学などのキャンパスがある街としての「学都」、そして三つ目は国際的な音楽祭「セイジ・オザワ松本フェスティバル」やバイオリンなど弦楽器の指導法「スズキ・メソード」発祥の地でもある街としての「楽都」です。

そこで当地区で最も歴史のある松本ロータリークラブは公共イメージと認知度の向上と「楽都」としてのPRを願ってユニーク且つ大変意義のある取り組みをしました。

NHKテレビに『駅ピアノ、空港ピアノ』という番組があります。駅や空港など多くの人々が行きかうスペースにピアノを置いて誰でも自由に弾く事が出来るというものです。

そんな公共の場にピアノを置く「ストリートピアノ」が欧米で広がりを見せている事から松本の玄関口で楽しくピアノを弾いてもらい音楽が溢れる空間を創りだそうと願い松本ロータリークラブの直前会長、折井正明さんを中心に財団補助金とクラブの支援でピアノを購入「楽都まつもと夢ピアノ」と名付けJR松本駅自由通路に設置しました。お披露目コンサートには駅の利用者など100名近くが集まり長野市出身でワルシャワ在住のピアニスト山本貴志さんがショパンの2曲を演奏したり小学校5年生がジャズを演奏し聴衆を楽しませてくれました。ピアノの脇には私達ロータリアンの誇りのシンボルであるロータリーエンブレムが大きく入ったスマートなアクリル板が置かれロータリークラブがこのピアノを設置した事を人々に伝え公共イメージと認知度の向上に大いに役立っています。この奉仕活動はテレビや新聞で大きく取り上げられましたが一か月半後にも新聞で一面カラーで再度報道されました。そして嬉しいことにこのピアノの調律師が松本ロータリークラブに入会するという事もあり、やはり公共イメージと認知度の向上が会員増強の為にも不可欠だと改めて実感しました。日本中の多くの駅や空港などでロータリークラブが設置したピアノが多くの人々の心を和ませ結果としてロータリーの公共イメージと認知度の向上になり更に会員増強に繋がるならば夢の様な素晴らしい事ではないでしょうか。